

輝く足跡東北照らす

河北文化賞5個人1団体に贈呈

第73回(2023年度)河北文化賞の贈呈式が河北新報創刊記念日の17日、仙台市青葉区のホテルウェスティンホテル仙台で行われた。東北各界の約200人が出席し、受賞した5個人1団体の業績をたたえた。

(10面に特集)

スズキ記念病院名誉院長 文化史家の浜田直嗣氏(83)は仙台市博物館で学芸

の星和彦氏(77)は1983年に体外受精、93年には顕微授精による妊娠をいずれも国内で初めて成功させた。高度不妊治療の先駆者として普及に努め、不妊に悩む夫婦に希望の光をもたらした。

七宝作家の高橋通子氏(87)は57年に活動を始め、金属の表面にガラス質のうわぐすりで模様を描いて焼き付ける技法を独学で習得。一度途絶えた「省胎七宝」を復活させた。中国や韓国など国内外の交流にも力を注ぎ、裾野を広げた。

東北大共創戦略センター特任教授の厨川常元氏(66)はスマートフォンカメラに使う非球面光学レンズの超精密加工、虫歯を削った部分に歯と同じ成分を噴射し形成する新治療法を開発。企業と連携し、東北のものづくり産業に貢献した。

昭和村からむし生産技術保存協会(福島県)は90年

員や館長を歴任し、仙台藩の文化財調査や慶長遣欧使節の研究、仙台市史の編纂に尽力。東日本大震災で被災した宮城県慶長使節船ミュージアムの館長として再生に道筋をつけた。

設立。地元で数百年守られてきたイラクサ科のカラムシ栽培、国重要無形文化財「小千谷縮・越後上布」の材料になる上質な繊維を取り出す「苧引き」の継承と後継者の育成に取り組む。

登山家の根深誠氏(76)は青森、秋田両県にまたがる白神山地を分断する青秋林道の建設に対して粘り強く反対運動を展開し、計画を中止させた。93年、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界自然遺産登録への道を開いた。

公益財団法人河北文化事業団の一方雅彦理事長(河北新報社社長)は「輝かしい業績を挙げた皆さまに敬意と祝意を表し、受賞をより意義深いものにしたいただきたい」と述べ、本賞の賞牌と副賞を贈った。

東北大言語AI研究センター長の鈴木潤教授が「文章生成AIの技術革新と社会変容」をテーマに記念講演した。

河北文化賞は東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各分野で顕著な功績を挙げた個人や団体に贈られる。



第73回河北文化賞の受賞者。左から星氏、浜田氏、高橋氏、厨川氏、昭和村からむし生産技術保存協会の皆川吉三会長、根深氏
＝仙台市青葉区のホテルウェスティン仙台